

もんじゅやまこふん
名前：**文殊山古墳**

所在地：^{しもつけし かみやま いしほしちない}下野市上古山（石橋地内）

時代：^{こふん ちゅうき}古墳中期？（^{せいきこうはん}4世紀後半から^{せいき}5世紀ころと
考えられます）

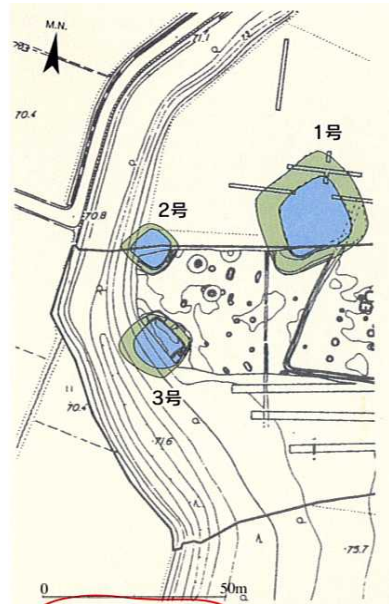
形：^{ほうふん}方墳？（調査前に壊れていたため^{ふめい}不明）

大きさ：^{ふめい}不明

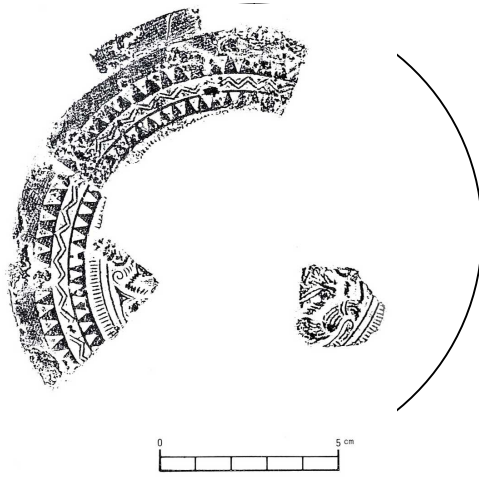
出土品：^{どうきよう}銅鏡・・・^{さんかくゑんけいしききよう すいていふくげんけい}三角縁形式鏡（推定復元径13.3cm）
^{どう すず なまり}銅と錫、鉛などの合金で作られた鏡です。^{こがた ため}小型な為、^{さんかくゑんしんじゅうきよう}三角縁神獸鏡
（^{ひみこ}卑弥呼の時代の鏡と言われている）より、あとの時代につくられた
ものと考えられます。^{どういつほんがた いがた}同一范型（^{かがみ}鑄型：土や石でできた型で何回も使
って同じ製品を作る）を持つ鏡が発見されていないので、いつごろ作
られたのか年代の特定が難しい。

その他の出土品・・・銅鏃（銅でできたやじり）・^{くだたま}管玉（石でできたネックレス）・
^{てっけん}鉄剣（鉄製の刀）の破片

その他：^{たいしやうねんかん おこな}大正年間に行われた開墾のため、^{かいいん}墳丘が消失し、^{ふんきゆう}出土品の出土状^{しやうしつ}況なども不明
なことから、古墳の作られた時期・大きさ・どこにあったのか正確な場所もわか
らなくなった古墳ですが、^{きちやう}貴重な出土品は注目です。



文殊山古墳出土小形三角縁形式鏡 下古山 山口 弘氏所蔵



第30図 文殊山古墳出土銅鏡拓影図

